

『ふるさとの山に向ひて』を歌う

2025年2月20日
江川猛

石川啄木作詩、新井満作曲の『ふるさとの山に向ひて』を男声四部合唱に編曲されたのが、福島県南相馬市で活動する男声合唱団「原町メンネル・コール」で合唱指導されている荒武敬(Ara Takenori)先生です。

この曲は、石川啄木の4首の短歌からなっています。石川啄木の有名な歌集「一握の砂」の第2章「煙」の中に収められた4首の短歌です。「一握の砂」には551首もの短歌が第5章に分けて収められています。その中から4首を選んで組みわせてつくられたのが、『ふるさとの山に向ひて』の作品です。おそらく作曲者の新井満さんが編集されたのであろうと推察しますが、資料検索では確かなことを見つけることはできませんでした。

歌詞と短歌を比較してみると、この曲にかける編者の強い思いが伝わってくるように思います。訳は「短歌の教科書」より引用しました。左が歌詞で、右がもとになった短歌です。

ふるさとの山に 山に向ひて
言ふことなし ふるさとの
山は あ～ ありがたきかな

やはらかに柳 柳あをめる
北上の 岸辺目に見ゆ
う～ 泣けとごとくに

かにかくに 渋民村は
恋し 恋し 恋しかり
おもひでの おもひでの山
おもひでの川

ふるさとの訛 訛なつかし
駐車場の 人ごみの
中に あ～ そを聴きにゆく

かにかくに 渋民村は
恋し 恋し 恋しかり
おもひでの おもひでの山
おもひでの川

ふるさとの山に 山に向ひて
言ふことなし ふるさとの
山は あ～ ありがたきかな

ありがたきかな

ふるさとの山に向ひて 言ふことなし
ふるさとの山は ありがたきかな

訳: ふるさとの山に向かい合ってみると、もはや何もない。ふるさとの山はありがたいものであるなあ。この歌は、故郷に帰ってきてしみじみと故郷の良さを実感しているという設定の歌で、実際には作者は帰郷していません。

やはらかに 柳あをめる北上の
岸辺目に見ゆ 泣けとごとくに

訳: やわらかな若葉が青い色で柳に芽吹く、北上川の岸辺の光景が自然と目に浮かんでくる。私に泣けと語りかけてくるように。作者は故郷を遠く離れて、追憶の中の北上川を思い浮かべ、望郷の念を抱いています。

かにかくに 渋民村は恋しかり
おもひでの山 おもひでの川

訳: なにかにつけて渋民村は恋しいものだ。思い出の山も、思い出の川も。渋民村は懐かしいばかりではなく、挫折や落伍も味わった場所です。そこにある大自然は拒むことなく迎えてくれると信じているのでしょう。

ふるさとの 訛りなつかし駐車場の
人ごみの中に そを聴きにゆく

訳: ふるさとの訛がなつかしい。駅の人ごみの中にそれを聴きに行くのだよ。ひとり故郷を離れて暮らす中で、郷里をなつかしく、恋しく思う気持ちが読まれた歌です。わざわざ聴きに行きたくなるほど、故郷への恋しさが募っているようです。

石川啄木は、小学校と中学校時代を洪民村で育ちますが、父の不始末が原因で実家のあった洪民村を離れることとなります。洪民村は現在の岩手県盛岡市の北部に位置し、東方約 8km にある姫神山(ひめかみさん)のふもとにあります。西方約 13km には岩手山(いわてさん)があり、村の中を北上川が南北に流れる自然環境にあります。姫神山は標高 1124m の独立峰でピラミッド型の山容が特徴です。岩手山は標高 2038m の南部富士の異名持つ雄大な山です。北上川を挟んで西に岩手山、東に姫神山が対峙する名山と言われています。ここでいう「ふるさとの山」はどちらかを断定する資料はなく論争が続いているとあります。洪民村の位置関係からしてどちらであってもおかしくはないと思われます。



岩手山と北上川



姫神山

石川啄木は 26 才で生涯を閉じる人生を送っており、その壮絶な人生を知っておくことも歌のこころをとらえる参考になると思います、次の動画を参考にアップしておきます。

動画は短歌一期一会が前後編でアップしています。

石川啄木 故郷への思い【前編】

https://www.youtube.com/watch?v=Ytssy_jUUqI&t=96s

石川啄木 故郷への思い【後編】

<https://www.youtube.com/watch?v=1qO0QRQSV10>